

秋吉 晴子 しんぐるまざあず・ふおーらむ沖縄 代表



沖縄県の調査で、子どもの相対的貧困率は 29.9%、ひとり親は 58.9%と非常に高い数字が示されました。子どもたち、親たちの抱える困難さは重く、個々の問題を解決していくには既存の制度を見直していくべきだと感じています。「あすのば」と皆さんとで取組んでいけたらと思います。

あきよし・はるこ 大阪府堺市生まれ。1999年に沖縄に移住。2004年しんぐるまざあず・ふおーらむ沖縄を設立、寡婦控除問題等に取組む。現在、那覇市で高2女子と二人暮らし。法律事務所職員。

今井 悠介 チャンス・フォー・チルドレン 代表理事



子どもの貧困問題に、一つの団体だけでできることには限界があります。社会全体で子どもたちを支えていくために、子どもたちと市民、行政、支援団体を繋ぐ「あすのば」は、重要な役割を担っています。「あすのば」の活動を全力で応援するとともに、子どもの貧困問題解決に向けて尽力します。

いまい・ゆうすけ 神戸市出身。関西学院大学在学中にブレインヒューマニティーで不登校児童の支援に携わる。東日本大震災後、チャンス・フォー・チルドレンを設立し、代表理事に就任。

大橋 雄介 アスイク 代表理事



震災がきっかけで子どもの貧困に関わるようになりました。地域で必要だと思う事業を一つひとつ積み上げてきましたが、穴の開いた船から必死で水を掻きだしているような虚しさを感じる瞬間があります。本当は穴を塞がなくてはならないのに。「あすのば」は、この穴を塞ぐチカラを秘めている。

おおはし・ゆうすけ 福島市出身。リクルート等を経て、仙台で震災に遭遇し直後にアスイクを立ち上げ、避難所や仮設住宅での学習サポートを続けた。自治体協働で学習支援・生活支援事業などを展開。

桂 浄薫 おてらおやつクラブ 事務局長



貧困問題の解決には、地域での見守りが欠かせません。古くから地域に根ざすお寺が、宗派を超えてその一端を担うことができるようにがんばります。当事者や学生が多く関わる「あすのば」のメッセージが、たくさんの人々に届きますように！

かつら・じょうくん 1977年、奈良県天理市生まれ。浄土宗 奈良教区 善福寺住職。善福寺は「和文のお経のお寺」として、葬儀・法要・月参りなどすべて和文で称える。

栗林 知絵子 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長



虐待・孤立の根っこにある貧困。しかし、子どもの貧困は、自己責任ではありません！こどもが家族、地域、様々なおとなに受容され、安心して依存できる環境づくりを、「あすのば」のみなさまとともに広げていきたいです。

くりばやし・ちえこ 東京都豊島区在住。6人家族で大学生の男児2人の母。自他共に認める「おせっかいおばさん」で、地域のおせっかいさんを繋げ、子どもの居場所を点在化することを目指している。

佐藤 真紀 ぎふ学習支援ネットワーク 理事



私自身が中退、入学し直しなど、楽ではない青年期を送ってきました。ここ 10 年はその様な当事者性も持ちながら子ども若者の支援に携わっています。大切なのは、しかるべき場所で、しかるべき時に、しかるべき事を行うこと。「あすのば」の場ではその様な実践を全国に拡大させましょう！

さとう・まき 1984 年岐阜県生まれ。精神障がい者支援施設の運営に関わる一方で、NPO 法人仕事工房ポポロ理事、よりそいネットワーク理事、岐阜市青少年会館運営委員などで若者支援を行う。

末富 芳 日本大学文理学部 教授



すべての子どもたちが夢にむかってがんばれる社会、日本をそんな社会にするためには、子どもの貧困対策が一番の近道です。「あすのば」の活動に期待します。ともにがんばりましょう！

すえとみ・かおり 京都大学教育学部卒業、同大学院教育学研究科博士課程単位修了。専門分野・教育行政学。内閣府「子どもの貧困対策に関する検討会」構成員。

高橋 勇造 Kacotam 理事長



子どもの貧困対策を都道府県の各地域で取り組んでいくなかで、「あすのば」は、子どもたちの声を発信し、行政やNPO、各地域の住民をつなぎ、子どもの貧困対策に一石を投じる存在であることを期待しています。

たかはし・ゆうぞう 北海道大学大学院修了後、道内菓子卸会社に入社し Kacotam を設立。札幌市内で学習支援を通して様々な子どもたちと関わる。2014 年 12 月末で会社を退職し、現在、同会理事長。

田口 吾郎 いるかねっと 代表理事



「あすのば」は子どもの貧困に向き合う団体にとって、仲間であるとともに、偉大な先生です。設立から今日まで最も多くの成果を出せた団体の一つだと思っています。「あすのば」を通して、子どもたちにこれからも多くの笑顔と誇りが持てるように一生懸命応援させていただきます。

たぐち・ごろう リクルート、楽天を経て、東日本大震災の被災地でのボランティア活動後、地元に戻り、福岡市でマナビバ運営委員会を設立。2012 年 10 月 NPO 法人いるかねっと設立し、代表理事。

田中 嵩久 アンビシャス・ネットワーク 代表理事



子どもの貧困対策センター「あすのば」の活動は、全国の方々の思いの結晶だと思っています。さまざまな形で集まった思いの結晶を私の関わる子どもたちや日々子どもたちと向き合っているスタッフの思いも乗せて、生きづらさを抱える子どもたちのために生かしていきたいと思っています。

たなか・たかひさ 日本福祉大学在学中に、愛知県半田市在住の中学生を対象に学習支援をする「アンビシャス・ネットワーク」を立ち上げる。「全国子どもの貧困・教育支援団体協議会」呼びかけ人。

谷口 仁史 NPO スチューデント・サポート・フェイス 代表理事



子ども・若者ビジョンにおいて問題の複合性が指摘されるように、子ども達の「未来」を支えるには、あらゆる人々の思いの集約が必要です。「あすのば」には、協働型、創造型の取組を育む「参画の場」としての役割を期待しています。

たにぐち・ひとし 1976 年生まれ。大学在学中から不登校、ニート問題に携わる。法人設立後、20 万件を超える相談、約 1 万 7 千件の訪問支援に取り組む。内閣府、厚労省を中心に審議会委員等を歴任。

直島 克樹 川崎医療福祉大学医療福祉学科 講師



子どもの貧困対策において、他世代の貧困も視野にいれながら、居場所-地域-制度づくりを連動させる必要があると考えています。また、子どもやその親が声を上げる場をつくり、その声を届けていくことは決して忘れてはいけなことです。「あすのば」は、その原点だと思います。

なおしま・かつき 2006 年、関西学院大学大学院修了。社会活動として、NPO 法人「子育て応援ナビぼっかぼか」理事、岡山市児童福祉審議会委員、総社市ひきこもり支援等検討委員会委員など。

日野 貴博 学習支援ボランティア団体 Atlas (アトラス) 代表



「当事者は語れるか」。この、支援者が抱えるテーマに切り込んでくれたのが「あすのば」でした。ともすると当事者の力を奪っていたこれまでの支援や運動の在り方を、「子どもが主体」とすることで新たな在り方を提示できると、そう確信しています。

ひの・たかひろ 愛媛県出身。立命館大学在学中からアトラス代表。卒業後、貧困や社会的孤立の対策・支援を行う NPO 法人で相談員などを経て、現在、日野町教育委員会スクールソーシャルワーカー。

松本 伊智朗 北海道大学大学院教育学研究院 教授



貧困問題における「当事者」とは誰のことか、解決を志向する「当事者性」とはどのようなことか、簡単な答えは見つかりませんが、考え続けるべき大切なことだと感じています。「あすのば」が、「当事者性」を広く共有できるような活動として育っていきますように。

まつもと・いちろう 1959 年大阪府堺市生まれ。主な社会活動として、日本社会福祉学会理事、日本子ども虐待防止学会理事、反貧困ネット北海道代表、札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会長など。

南出 吉祥 岐阜大学地域科学部 准教授



「子どもの貧困」は、単に子どもだけの問題ではなく、日本社会全体の構造問題です。「社会保障の充実」「子育て・教育の社会化（無償化）」「子ども・若者の育ちの保障」それぞれの課題を同時に進めていくことが不可欠で、大変な課題ですが、ともに向き合っていきましょう。

みなみで・きっしょう 岐阜大学地域科学部にて、教育学をベースとして子ども・若者支援などにまつわる研究をしている。社会活動として、若者支援全国協同連絡会（JYC）全国常任など。

門馬 優 TEDIC 代表理事



子どもたちの“生きる”を決めるプロセスに、子どもたち自身が関わるという当たり前のプロセス。これを大切にしながら、子どもの貧困対策に突き進む「あすのば」を、被災地・石巻から支えていきたいと思ひます。

もんま・ゆう 1989 年生まれ、宮城県石巻市出身。早稲田大学大学院修了。東日本大震災で故郷が被災、2011 年 5 月に TEDIC を設立。石巻市教育委員会学校支援地域コーディネーターなどを歴任。

山田 大樹 訪問と居場所漂流教室 代表



子どもの貧困対策は、当事者に対する支援と社会構造の変革の両面が必要であると考えます。公害対策が当事者の命を救う医療とその原因を作ってきた会社の体質や技術を進歩させることで行われたようなものです。「あすのば」がこの両面に関わる人たちのハブとなることを期待しています。

やまだ・ひろき 1972 年北海道生まれ。塾講師を経て、2002 年より北海道にて「訪問と居場所 漂流教室」を主宰。不登校・ひきこもりを通じ、子どもの貧困と関わり続けている。

山屋 理恵 インクルいわて 理事長



子どもたちが社会に包み込まれる仕組みをつくりたいですね。「子どもの貧困対策」はすべての人の「生きる」につながっています。一人ひとりが尊重され、家族のカタチにかかわらず誰もが生き生きと暮らしていける社会を実現しましょうね。

やまや・りえ 行政の消費生活、多重債務や生活再建相談に携わり、生活困窮の背景、個人から家族全体、地域づくりを視野にいれた支援に取り組む。震災後、ひとり親家族や被災者支援を行っている。

湯浅 誠 社会活動家・法政大学現代福祉学部 教授



子供の貧困は、人権の問題であり、福祉の問題であり、そして成長の問題です。日本の将来に対する不安や懸念がある中、未来ある子供たちに今の私たちが何を提供できるか、まさに正念場です。「あすのば」には、そのど真ん中で、より一層重要な役割を果たしていただくことを期待します。

ゆあさ・まこと 1969 年生まれ。東京大学大学院在学中からホームレス問題に携わる。2006 年より日本の貧困問題についての活動と提言を続ける。内閣府参与、内閣官房社会的包摂推進室長などを歴任。